

梶哲夫教授の略歴・主要業績

略 歴

- 1925年8月2日 東京市浅草区田町に生まれる。
- 1932年4月 東京府武蔵野町吉祥寺武蔵野町第一尋常小学校に入学，1938年3月同校卒業。
- 1938年4月 東京高等師範学校附属中学校に入学，1943年3月同校卒業。
- 1943年4月 東京高等師範学校文科第一部に入学，1945年3月同校修了。
- 1945年4月 東京文理科大学哲学科倫理学専攻に入学。
- 〃 5月 陸軍特別甲種幹部候補生として，東部軍教育隊に入隊。8月15日前橋陸軍予備士官学校で終戦を迎える。9月学園復帰。
- 1947年4月 新制中学校の創設に参加（東京都杉並区立宮前中学校）。新教科としての社会科と出会う。
- 1948年3月 東京文理科大学卒業。
- 1948年4月 東京文理科大学副手，東京教育大学助手（文学部社会科学科の創設にかかわる）。この間，都立城南高等学校等において，発足時の高等学校社会科の「一般社会」「時事問題」を担当（非常勤）。
- 1952年4月 東京教育大学附属中・高等学校教諭，教育学部講師。
- この間，附属中学校においては，「国際理解教育」事始めに参加，「人権教授における講義法と活動法の比較研究」（1954，1955年）という実験研究を担当。
- また，「政治・経済・社会的分野」について，「憲法からみた基本的課題と資料による学習指導」を実践研究し公表（1960年～1965年）。
- なお，教育学部講師として，全学対象の社会科教育法，特に「公民教育法」を担当。
- 1966年9月 文部省初等中等教育局中等教育課，教科調査官（社会科担当）。
- 中学校社会科「公民的分野」の成立を担当，高等学校社会科の「倫理・社会」と「政治・経済」の改訂を担当。
- 1972年4月 東京教育大学助教授教育学部
- 1974年7月 東京教育大学教授教育学部
- この間，1978年3月の東京教育大学閉学まで，社会科教育講座の担当者。

1976年4月 筑波大学教授教育学系

この間、大学院修士課程教育研究科の創設に参画、特に教科教育専攻社会科教育コースの設立を担当(1976年～1979年)。

また、全学群教職課程委員会の委員長(1981年～1984年)。

1981年～1984年まで、茨城大学講師 — 非常勤・教育学部担当。

1984年～1988年まで、千葉大学講師 — 非常勤・大学院教育学研究科担当。

1984年10月 財団法人・日本教育研究連合会から表彰される。「社会科における公民教育の理論と実践」による。日本社会科教育学会の推薦にもとづく。

1985年4月 筑波大学大学院修士課程教育研究科長(1988年3月まで)。

1989年3月 定年退官。

学会及び社会における活動

1953年11月 文部省教材等調査研究会(中学校高等学校社会科小委員会)委員。

1955年4月 同 上

1957年11月 同 上

1960年4月 NHK学校放送中学校社会科・「政治・経済・社会」の番組担当(1969年まで)。

1963年3月 上掲の文部省委員。

1969年3月 学術審議会専門委員(1975年まで)。

1969年7月 社会教育審議会臨時委員(1971年まで)。

1975年12月 文部省、高等学校学習指導要領(社会)の作成に関する調査研究の委員。

1980年8月 日本教育学会理事(1986年8月まで)。

1985年4月 日本社会科教育学会会長(1989年3月まで)。

主 要 な 著 作 等

著 書 等

宮原兎一・梶哲夫・中川浩一共著『中等社会科教育の研究』高陵社書店	1967
梶哲夫編著『新しい社会科と公民的分野の指導事例』明治図書	1971
梶哲夫・加藤章・寺沢正巳編著『公害問題と環境教育にどう取り組むか—社会科を中心に—』明治図書	1973

梶哲夫編著『中学校社会科指導細案－公民的分野』明治図書	1974
梶哲夫・横山十四男・中川浩一共著『中等社会科教育の研究・総論』高陵社	1974
布川正吉・梶哲夫編著『高校教科指導全書－政治・経済』学事出版	1974
朝倉隆太郎・平田嘉三・梶哲夫編著『小・中・高校，社会科教材の精選と系統化』明治図書	1975
梶哲夫編著『現代社会によりよく生きる教育』第一法規	1976
梶哲夫著『中等社会科教育の研究－公民教育・「現代社会」「倫理」「政治・経済」の教育』高陵社	1980
朝倉隆太郎・横山十四男・梶哲夫共著『中学校・社会科教育法』図書文化	1981
小林信郎・梶哲夫編著『新社会科（公民的分野）の単元構成と展開』明治図書	1981
小林信郎・梶哲夫編著『「現代社会」の単元構成と展開』明治図書	1983
論 文 等	
憲法からみた基本的課題と資料による学習指導……『東京教育大学附属中学校研究紀要』	
No. 13	1962
人権と公共の福祉の取り扱い……文部省『中等教育資料』No. 152	1963
中学校における社会的思考力をどのように考えるか……日本社会科教育学会『社会科教育研究』	
No. 21	1965
重点教材をどう選択したか－社会科教材の場合……明治図書『現代教育科学』No. 94	1965
政治・経済・社会的分野，指導上の問題点（文部省初等中等教育局中等教育課監修『中学校・高等学校社会科：政治・経済講座』実教出版，所収）	1966
政治・経済・社会的分野の思考構造と教材の構成……明治図書『教育科学・社会科教育』No. 22	1966
政治・経済・社会的分野の基本資料と資料研究の方法……『教育科学・社会科教育』No. 35	1967
社会科公民的分野の考え方……『文部時報』No. 1101	1969
社会科公民的分野の新構想……第一法規『学校経営』14巻7号	1969
「教育課程と国際理解教育」の一部分担（日本ユネスコ国内委員会『学校における国際理解教育の手びき』〔改訂版〕，所収）	1971
情報化時代と公民的分野の研究課題……『教育科学・社会科教育』No. 77	1971
公民的領域における学習作業化の条件……『教育科学・社会科教育』No. 95	1972

統計資料の活用……文部省『統計と教育』No.176,177,179,180	1972～1973
望ましい社会的判断力を育成するために……『教育科学・社会科教育』No.101	1973
教科書の歴史—社会科「政治・経済」の変遷……学事出版『高校教育』6巻10号	1973
公害教育とはなにか—学校教育は公害をどうとらえるか……明治図書『学級経営』No.92	1973
社会科教育と憲法……『季刊 教育法』No.11	1974
消費者教育(木原健太郎・小林信郎編著『社会認識の形成』第一法規, 所収)	1974
社会科の「意義」「歴史」「国際比較」「課題」(奥田真丈編著『教科教育ハンドブック』第一法規, 所収)	1974
公民分野, 資料精選の視点と考えさせる資料の条件……『教育科学・社会科教育』No.163	1977
新教育課程への取り組みと教師の研修……『中等教育資料』No.366	1977
社会科カリキュラム理論の動向と課題—社会科カリキュラム変遷史における「現代社会」の意義を中心として……日本社会科教育学会『社会科教育研究』No.44	1980
戦後社会科教育研究の総括と課題—政・経・社教育(公民教育)の研究……日本社会科教育研究会「社会科教育論叢」XXIX	1982
公民教育と社会科教育(日本社会科教育学会編『社会科における公民的資質の形成』東洋館, 所収)	1984
総合的な見方・考え方を深めさせる指導—社会—……『中等教育資料』No.481	1984
公民教育と地域(朝倉隆太郎先生退官記念会編『社会科教育と地域学習の構想』明治図書, 所収)	1985
社会科再検討・どこでどんな主張がされたか—戦後40年の歩みを整理する—……『教育科学・社会科教育』No.289	1986
指導要領の変遷史にみる社会科の歩み……『教育科学・社会科教育』No.301	1987
公民的分野研究の総括と研究課題 1979年版～1987年版(明治図書『社会科教育研究年鑑』所収)	1979～1987
高等学校社会科「再編成」の意味を考える—学習指導要領変遷史の視点から—……清水書院『高等学校社会科リサーチ』, 1988年6月	1988
個性化・多様化のポイント—中学校・社会科—……日本教育評価研究会『指導と評価』Vol.34, No.10	1988
私の社会科教育に関する研究……筑波大学教育学研究科『教育学研究集録』No.12	1988

筑波大学関係の共同研究, 論考

- I 筑波大学教育学研究会編『現代教育学の基礎』に編集委員として参画 1982
- II 学内プロジェクト, 教育学系実験調査費による共同研究－『総合大学における教職教育の研究』－の代表 1983～1988
- III 『筑波フォーラム』における論考
1. 「総合大学における教職教育の研究」No. 22 1984
 2. 「公開教育・教育研究科の教育対応」No. 24 1986
 3. 「修士課程大学院の教育：教育研究科」No. 26 1988

書 評

1. 内海巖『国際理解教育の研究－ユネスコ国際理解教育協同学校計画を中心として－』（第一法規, 1973年）について, 日本社会科教育研究会『社会科研究』No. 22 誌上にて 1974
2. 永井滋郎『国際理解教育に関する研究－国際的協同研究をとおして－』（第一学習社, 1985年）について, 日本社会科教育研究会『社会科研究』No. 34 誌上にて 1986